第四回　校長室　エッセイ・チャレンジ

第四回のお題

夏休みも三週間が過ぎ、ちょうど半分が終わってしまいましたね。この夏休み中にやろうと計画していたことは順調に進んでいますか。ここからの半分はとても早いですよ！

私は、夏休み中にできるだけたくさんの本を読むことと、これまでの自分の取組を振り返り、九月以降の計画を立てることを目標にしています。これまでに三島由紀夫の小説を三冊読みました。仕事上の勉強の本も並行して読んでいます。

第四回目のお題は「ことば」です。この地球上で、私たちが使っているような「ことば（言語）」をもっているのは人間だけだそうです。地球上には、約七千百七十の言語があるのだそうです。日本語や英語はそのうちの一つ。人類にとって「ことばの発明」の意義は、単に意思を伝える道具を得たということ以上に、知識・文化・社会を世代を超えて蓄積できるようになったことにあります。

皆さんにとって「ことば」とはどんなものですか。「ことば」には、どんな力があると思いますか。「ことば」について思うところを、「ことば」を使って書き記してみてください。

【お願い】

作品には、できれば「タイトル」と、自分の学年・クラス・氏名をつけてください。

校長　川中子登志雄

【エッセイ】essay　随筆

エッセイ（随筆）とは、筆者の体験、感情、考えを自由な形式で綴った文章です。日常の気づきや主観的な視点を中心に描かれ、読者に寄り添い、時には笑いや共感、新しい視点をもたらす魅力があります。日記とは異なり、読者を意識して背景や心情を掘り下げて

〈特徴と魅力〉

自由なスタイル：決まった形式がなく、文体や構成は筆者に委ねられています。

主観的な描写：客観的事実の羅列ではなく、事実をどう感じ、どう受け止めたかという内面が重要です。

共感と視点：他人の視点や人生に触れることで、自身の価値観が揺さぶられるような体験ができます。

気軽に読める：日常の一コマを切り取った内容が多く、リラックスして楽しめます。

〈書き方のポイント〉

テーマの絞り込み：「楽しい」「良かった」だけでなく、なぜそう感じたのか、具体的な背景や心の動きを描写します。

読者を意識する：自分の世界に閉じこもらず、読者が共感できる要素を意識します。

出典「丸善ジュンク堂書店ネットストア」「日本福祉大学エッセイコンテスト」